



三島カルチャーをつくる人びと

16

写真家・岡部旗店店主

岡部 稔 氏



プロフィール

1962年、静岡県三島市生まれ。2001年から抽象写真家として個展、グループ展を県内外で多数開催。IMPROVISATION（即興）をテーマに、ミュージシャンやダンサーとのコラボレーションも行なっている。2014年第4回EMON AWARD 優秀賞受賞。

暮らしと地続き 街のアート案内人

中央町で「岡部旗店」を営みながら、アーティストとしても精力的に活動を行なっている岡部稔さん。営みとアートワークを両立させながら、地域活動にも積極的に関わっている岡部さんにお話を伺いました。

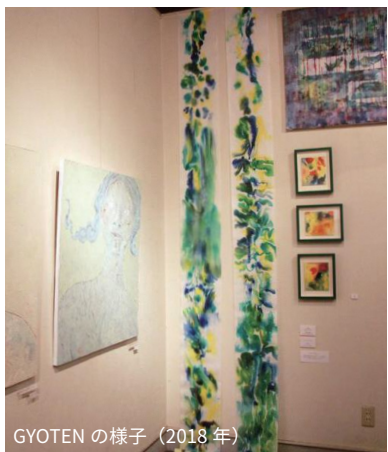
岡部旗店はどんなお店ですか。

旗や幕、幟、のれんや手ぬぐいなどの染物を家業としてしています。私が4代目なので、創業は明治時代。百年以上続いています。今は染めの仕事は外注に出すことが多いですが、自分で染めることもありますよ。

この店舗はギャラリーにもなっていて、自分の作品を展示したり、オリジナルグッズの販売もしています。商店街の人やアーティスト仲間など、毎日いろいろな方が雑談や顔見せに来ますよ。

街のギャラリー、街のアーティストのために

毎年ゴールデンウィークに「GYOWTEN」という展覧会を開催しています。2012年に立ち上げて、8回目の準備中です。岡部旗店と、ここから歩いてすぐの「田町カフェ」と「GALLERY UCHIDA」、3つの小さなギャラリーを会場に、静岡県東部のアーティストに声をかけ



GYOWTENの様子 (2013年)

を現場に持って行って組み立てて作品としていたのです。だから、父の作品は全然残っていないのですが、そんな風に、自分の好きなように自由に作ればいいんだ、という姿勢を学んだ気がしますね。

自分はずっと三島で「旗屋の跡継ぎ」として育ちましたが、若い時にデザインの勉強に2年東京で暮らし、様々な音楽や美術に触れたことも大きな経験でした。

家業をしながら創作活動を続けるということについてどう考えますか？

作りたいから作っているだけですね。美術について専門的な勉強をしてきたわけではないですが、好きだから続けているのだと思います。大きな使命感を持って、大掛かりな作品を作るといよりは、思いついた時に感覚的に手を動かして、簡単にできる作品が好きですね。超絶技法ならぬ「超雑技法」なんて自分では言っています。

岡部さんから見て、三島はどんな街でしょうか。

新しいことをやろう という気持ちになる街

ずっとこの店から三島を見てきていますが、良い方向に行っていると思います。賑わいもあるし、かと言って都会過ぎず、コンパクトで。先ほどの現代音楽の牧野さんさんのように、「何かをやるう」という気持ちになる街」になってきているのではないのでしょうか。



岡部旗店

+plus Gallery

静岡県三島市中央町 2-8

Facebook ▶ 「岡部旗店」で検索

大通り商店街にあるフラッグポールを「GYOWTEN」のメンバーでジャックする企画を2016年、17年秋に行いました。三嶋大社から三島広小路駅まで、51本のポールにアーティスト16名の作品をあしらったフラッグを飾りました。この企画は、街で店を構える旗屋ならではの発想かもしれませんね。大通り商店街が電線地中化してしばらく経ちますが、フラッグポールも、もっと自由に活用したらいいと思います。



GYOWTEN STREET JACK (2016年)

お祭りで中央町の山車に乗る七福神、節分で商店街に現れる鬼も岡部さん作と聞きました。

あれは、2017年に中央町が三島大祭りの当番町だった時に、中央町青年会の仲間や息子と一緒に作りました。アーティストとしての仕事というわけではないですが、この街にずっと住んでいますので、住人として、自分ができることは楽しんでやっています。



三島大祭りでの風神雷神 (2017年)

いつまでも自由に 好きなことを 子供の頃からアートに興味があったの ですか？

父親がアバンギャルドな創作活動をしてきたのを間近で見えたので、自然と好きになった気がします。

昭和40年代、三島美術協会ができたばかりの一番活動が活発だった時に、一番愛着のあることをしていたのが父のようです。ゴミ

通りに面した広場や空間も多いので、ちょっとしたミニライブなんかもやりやすいですね。この前は、三島をジャズロードにしたいという人が来ましたよ。

よりクリエイティブな 街に向かうために

次は、文化活動、芸術活動への市民の理解や関心がより高まっていくことを望みます。クリエイティブなことへの価値を認め、適切なお金を払って芸術を楽しんだり、デザインやものづくりへの敬意を払ってくださるような街になっていくといいと思います。

また、市の施設の使い勝手や、既存の市の文化団体の運営について、市民が意見を言えるような機会がもっとあってほしいと思います。

アーティストやクリエイターが生き生きとして、表現が溢れている街がいいですね。

「三島カルチャーをつくる人びと」は、「三島の文化応援プロジェクト」が、三島周辺に拠点を置く企業や三島の文化に関わる方々に、三島の文化についてインタビューするシリーズ企画です。配布場所／生涯学習センター、三島市民文化会館、市内文化施設等。詳しくは下記のwebサイトをご覧下さい。